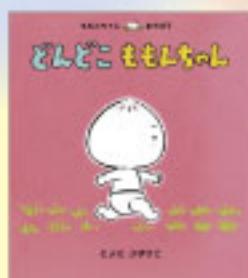


著作権保護コンテンツ



「どんどこ ももんちゃん」
作／とよたかずひこ
800円(童心社／2001)
どんどこどんどこ、どんどこどん
どこ。ももんちゃんが走っていく
先には、何があるのでしょう。



蒼くん (11ヶ月)

特集



京太くん (1歳7ヶ月)



「くっついた」
作／三浦太郎
800円(にぐま社／2005)
ページをめくると、「くっついた！」
の繰り返し。金魚さんも、アヒルさ
んも、ゾウさんも、みーんなくつ
いた！



「だるまさんが」
作／かがくいひろし
850円(ブロンズ新社／2006)
「だーるーまーさーんーがー」と、
おなじみの遊び。でもそのあと
に慈ぐのは「ころんだ」ではな
いところがたまらなく楽しい。



健太くん (9ヶ月)

赤ちゃんと 1・2・3歳



ひなこちゃん (1歳3ヶ月)



「びょーん」
作／まつおかたつひで
780円(ボブラ社／2000)
カエルが、びょーん。ネコが、
びょーん。イヌも、びょーん。カ
タツムリは？ 「びょーんってで
きるでしょうか？」



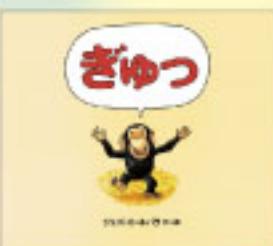
萌音ちゃん (9ヶ月)

の絵本



万葉ちゃん (7ヶ月)

「ぎゅつ」
作・絵／ジェズ・オールバラ
1,400円(徳間書店／2000)
子ザルのジョジョくんはお散
歩中です。ゾウの親子も、ラ
イオンの親子も、キリンさん
もぎゅつ。ジョジョはママが
寂しくなってしまいました。



プログラム 小学校低学年

どこで／教室 所要時間／約15分×2
テーマ／秋を絵本で楽しもう！

このプログラムのポイント
景色の美しい秋、なぜかとってもおなかがすく秋……。前半は軽め、後半にしっかりめの構成にしました。

プログラムA
①詩「ひがん花咲いた」
『さくらが走る 富田進子童謡詩集』より
作／宮田進子 絵／武田恵子
1,200円(角川出版社)
赤い色とその形が印象的な彼岸花の詩から始めます。どんな花かみんな知っているかな？



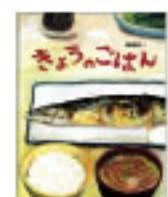
②「ヒガンバナのひみつ」
作／かこさとし
1,300円(小峰書店)
彼岸花には秘密がいっぱい。そのまま読むのではなく、ブックトークの形で紹介します。見返しに土地区画の名称一覧があるので、住んでいるところの呼び名を紹介するのもおすすめ。



③「おひさまいろのきもの」
作・絵／広野多利子
1,500円(福音館書店)
表紙には、主人公とともに美しい彼岸花が、着物ができるあがる工程や秋祭りのようすなど、日本らしさがあふれる絵本です。



プログラムB
①「きょうのごはん」
作／加藤伸之
1,200円(偕成社)
表紙のさんまのおいしそうなこと！ 題まで丁寧に描かれた食べものたち。見れば見るほどおなかのすく絵本です。みんな、夕べは何を食べた？ そして今日の晩ごはんは何かな？



②「ざほんじいさんのかきのき」
文／オトウさん 絵／福井泰子
1,300円(福音館書店)
おいしい柿の実をひとり占めするざほんじいさん。隣のまあばあさんがおそそ分けしてもらえるのは、へたや葉っぱや枝ばかり。けれど、とっても楽しそうですよ！



(開片手書き)

プログラム 未就学児

どこで／幼稚園、保育園 所要時間／15分×2
テーマ／森の宝物、秋の味

このプログラムのポイント
秋はちょっとせつないけれど、森や林ですてきな宝物が見つかりますよ。おいしいものもたくさんあります。

プログラムA (3~4歳)

①「あんどうくん」

作・絵／のぞみ 真
品切れ重版未定(ボブロ社)
あんどうくんのお仕事は、高いビルの窓ふき。今日も上から街のにぎわいを眺めます。気になるあの子のお店も見えるかな。

**②「どんぐり ころちゃん」**

作／みなみじゅんこ
1,100円(アリス館)
わらべ歌にあわせて読んでから、もう一度しぐさをつけて遊びます。最後の「はちくりしょ！」でじゃんけんをしてもいいし、どんぐりを手の中に隠して「どっちだ？」と聞いかけでも。

**③「ナミチカのきのこがり」**

作／齊矢左左
1,300円(童心社)
ナミチカは、おじいちゃんと一緒にはじめてのこぐりに。不思議な展開を楽しんでもらえるよう、丁寧にゆっくり読みます。



プログラムB (5~6歳)

①「いろいろだんご」

作／山岡ひかる
800円(くもん出版)
おいしいおだんご、いろんな名前。お月見だんごも出てきます。

**②「きのこ ふわり胞子の舞」**

写真・文／猪 沙耶
1,200円(ボブロ社)
光に透かすと胞子が見えます。美しい写真で、きのこの不思議にふれてみましょう。無理に解説を加えなくても、本の文章のまま。

**③「ファーティとおちば」**

作／ジュリア・ローリンソン
絵／ティファニー・ビーカー 訳／木坂涼
1,400円(理謙社)
仲よしの木がひらひら葉っぱを落としていく。ファーティは心配でたまりません。落ち葉の季節はちょっとせつない。



(米原木ノ実)

プログラム 0・1・2歳

どこで／子育てサークル 所要時間／30分
テーマ／おべんとうって楽しいね

このプログラムのポイント
おべんとうも絵本も開けるときのワクワク感はサイコーです。みんなでおなかも心もマンブクマンブク。

①「いないないばああそび」

作／さむらゆういち
680円(偕成社)
元気にごあいさつ“こんにちは～！”。最初はいないないばあで遊びましょう。みんなも一緒にできるかな？

**②「びっくりいろあそび」**

作／チャック・マーフィー 訳／きたむらまさお
品切れ重版未定(大日本絵画)
「何色？」と色を聞いたり、隠れている動物をあてっこしたり。緑色やピンク、白と黒の動物って何だろう？

**③「さつまのおいも」**

文／中川ひるたか 絵／村上伸彦
1,300円(童心社)
秋はおいしいものがいっぱい。さあ！ みんなでおいも掘りにしゃっぱーつ！

**④「おべんとう なあに？」**

作／山藤 春 絵／玉希佐根
1,000円(偕成社)
おいも掘りの次はおべんとうを持ってピクニックに出かけましょう！ キツネくんやゾウさんのおべんとうは……？ オ・タ・ノ・シ・ミ！

**⑤「おべんとうばこのうた」**

構成・絵／さいとうしのぶ
900円(ひさかたチャイルド)
ユーモラスなおかずさんたちと手遊びを楽しみましょう。にんじんさんなどは指を使わずに手をたたくなど工夫してみましょう。

**⑥「ぱっぴふっぺほん」**

絵／もうかおり 文／うしろよしあき
1,300円(ボブロ社)
ぱっぴふっぺほんは魔法の言葉。ぱびぱべぱぱぱ……で変身です。

**⑦「びょーん」**

作／まつかたつひで
780円(ボブロ社) 中大型絵本版もあり
最後はみんなの大好きなびょーんです。大型絵本で読むと迫力満点です。かたつむりさんも跳べるといいね！ みんなと一緒に“びょーん！”。



(伊藤知子)



対象別おはなし会のプログラム例を
ご紹介します。

ここで紹介する絵本や紙芝居は、
ご家庭での読みきかせにもおすすめです。
秋のブックガイドとしてもご活用ください。

行事絵本・季節の絵本

紅葉

「さわざわもみじ」

作／ひがしなおお
絵／さうちたつろう
800円(くもん出版)
風が吹いて、空に飛び出したもみじさん。くるくる踊って、ふんわり落ちた。また風が吹いたら、ざわざわざざざ、飛ばされた。



月

「月おとこ」

作／トニー・ウンゲラー
訳／たむらりょういち、あそうくみ
1,500円(評論社)

月おとこは、毎晩地球の人たちを見おろして、うらやましく思っていました。とうとうある日、流れ星のしっぽをつかんで、地球にやってきました。



敬老の日

「はやく あいたいな」

作／五味太郎
1,200円(絵本舗)
ようちゃんはおばあちゃんに、おばあちゃんはようちゃんに、急に会いたくなつて出かけます。ふたりはちゃんと会えるでしょうか。



紙芝居

「かにむかし」

脚本・絵／三姫結一 作／木村次郎
2,200円(童心社)
さるどんとかにどんが登場する、あなたじみ「猿蟹合戦」のおはなし。「日本五大昔ばなし」のひとつです。

**「おはぎ べたべた」**

脚本・絵／土田義晴
1,400円(童心社)
おばあちゃんが、あずきを洗い始めました。何ができるのでしょうか？ キキとクンクンも、手伝います。



(安富ゆかり)

生誕
100年

柿本幸造さん

『どうぞのいす』『どんぐまさん』でおなじみの



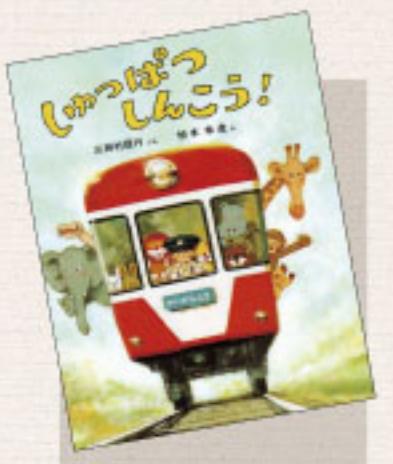
今もそのまま残るスケッチ。



絵本にも描かれている自宅。

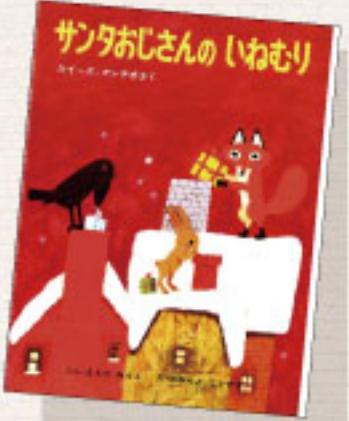


庭に咲く花。



(小峰書店)

教材・文／曾我千賀子 (P.40～43・46) 撮影／石川正勝



(偕成社)

「どんぐまさん」は初版1967年、
 「どうぞのいす」は初版1981年。
 誰もが一度は読んだことがあるのではないでしょか。
 カわいらしくやさしいタッチの絵本は、
 多くの親子に、楽しい絵本の時間を届け、
 心をあたたかく、幸せにしてきたことでしょう。
 作者の柿本幸造さんは1915年生まれ。
 今年は生誕100年になります。
 98年12月に亡くなられましたが、遺された多くの作品は、
 今も親子2代、3代にわたって愛されつづけています。



(佐光社)

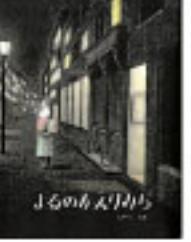
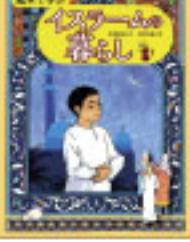
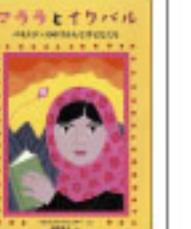


(ひさかたチャイルド)



自宅のアトリエで仕事をする柿本さん。

著作権保護コンテンツ

<p>「よるのかえりみち」</p> <p>ウサギの男の子は、暗い夜の道をお田さんにだっこされておうちに帰ります。本屋さんもレストランも店じまいして、あたりはとても静かです。どこからか話し声も聞こえ、いい匂いもしてきました。夜の情景に心が落ちます。</p> <p>作／みやこしあきこ 1,300円(偕成社)</p> 	<p>「ことばのいたずら」</p> <p>言葉のいたずらをしましょう。「ばくうそつきだよ」というかたは、おもしろいですか? 「このかんばんを読んではいけません」と書板は? クスッと笑えるイラストとともに、言葉のいたずらが詰めます。では一緒に声に出して読んでみましょう。</p> <p>作／五味太郎 1,300円(絵本館)</p> 	<p>「ちっちゃな サリーは みていたよ ひとりでも ゆうきを だせたなら」</p> <p>サリーはクラスでいちばん小さな女の子です。ある日、友だちがいじめられるところを見かけましたが、誰も止めようとしませんでした。「ほんとうにそれで、いいのかな?」サリーは勇気を出し、たったひとりで立ちあがりました。</p> <p>文／ジャスティン・ロバーツ 絵／クリスチャン・ロビンソン 訳／中井はるの 1,400円(岩崎書店)</p> 	<p>「だれかさん」</p> <p>ネコが目覚めると、もたれかかって一緒に寝ていたのはネズミ。ふたりはびっくりしますが、ネコはネズミをかわいく思い、ネズミはネコをやさしそうだと感じます。ふたりは歌を歌い、笑って楽しく過ごします。</p> <p>切り絵／今森光彦 文／内田鶴太郎 1,300円(あすなろ書房)</p> 	<p>「絵本で学ぶ イスラームの暮らし」</p> <p>アラビア語の発音により近い表記にすると「イスラーム」となる宗教は、世界で大勢の人が信じています。それは、どんなものなのか? その基本的な教えや行事を、アラブ人の少年アマドとその家族の様子を通して知ることができます。</p> <p>文／松原直美 絵／佐竹美保 1,200円(あすなろ書房)</p> 
<p>「おむかえ まだかな」</p> <p>夕方の保育園、かなのママはまだお迎えに来ません。りす組のときのように電車が止まったのかな? 明日のケーキ屋さんで大きなケーキを買ったのかな? それとも途中で風船を運んでいるのかな? お迎えを待つかなは、あれこれ考えてしまいます。</p> <p>作／もとしたいづみ 絵／おかだちあき 1,300円(学研教育出版)</p> 	<p>「つきよのくろてん」</p> <p>冬の終わりの森の中で、シマクロウにねらわれた黒テンは、逃げ回ります。大きなネズミを捕まえた黒テンは、キツネに奪われないように、素早く木に登って逃げます。月が森を照らし、黒テンの体が輝きました。</p> <p>作／手島圭三郎 1,700円(絵本塾出版)</p> 	<p>「ふくしまからきた子 そつぎょう」</p> <p>原発事故のあと、引っ越ししたまやは、久しぶりに福島に帰ってきました。今日は、前に通っていた小学校の卒業式。自転車で出かけたまやは、さまざまなことを思い出します。懐かしい友だちの声が聞こえてきました。「ふくしまからきた子」の挿絵です。</p> <p>作／松本猛、 松本春野 絵／松本春野 1,300円(岩崎書店)</p> 	<p>「やさい べたべた かくれんぼ」</p> <p>『えのぐをつけて べた』。登場したのは、おくちゃんです。おくちゃんのお友だちも「べた べた」と、いっぱい出てきてかくれんぼを始めます。さあ、なんの野菜が隠れているのかわかるかな? 巻末に、野菜スタンプの遊び方を紹介されています。</p> <p>作／松田泰那子 1,100円(アリス館)</p> 	<p>「ことりの みずあひ</p> <p>雨の夜、小鳥は明日のお天気を祈りながら、眠ります。朝になって、小鳥は「みずあひにはびったりのいいひだよ」と歌いながら、水遊びへ。ところがなかなかいい水たまりが見つかりません。やっと見つけた水たまりは……。</p> <p>作／マリリビーナ・ルッソ 訳／なかがわちひろ 1,500円(あすなろ書房)</p> 
<p>「ヘンテコはみがきこ」</p> <p>ヘンテコなものはかり作っているヘンテコかいじんが用意したのは、ヘンテコ画巻き紙。この画巻き紙を使うとみんなヘンテコになってしまいます。リンゴ味だとリンゴになっちゃいました。世界中の人が使っていたから、さあ大変です。</p> <p>作・絵／みやにしたつや 1,300円(学研教育出版)</p> 	<p>「りんこちゃんのへんしん」</p> <p>しましまのセーターを着たくうくんが、トラに変身したのが始まりでした。みんなも、ライオンやネコやゾウになって遊び始めました。りんこちゃんはリンゴに変身しましたが、隣っこでころんとしているだけではおもしろくありません。</p> <p>作／はやまめぐみ 1,300円(絵本塾出版)</p> 	<p>「マララとイクバル ハキスタンのゆうかんな子どもたち」</p> <p>借金のために4歳で働き始めたイクバルは、自由を得たのも児童労働の実態を世界に訴え続けました。学ぶことが好きなマララは、女子の教育を禁止するタリバンに圧せず、ノーベル平和賞を授賞しました。勇気あるふたりの物語は本のまん中で出会います。</p> <p>作／ジャネット・ウинтер 訳／道傳慶子 1,600円(岩崎書店)</p> 	<p>「サンバギータのくびかざり」</p> <p>リンは病気のお姫さんのごはんを買うために、白いサンバギータの首飾りを売りたいのですが、ちっとも売れません。がっかりしていると、やさしく声をかけてくれる女性がいました。あなたかい人々に囲まれて、強く生きるリンが描かれています。</p> <p>文／松岡 友 絵／ボン・ペレス 1,600円(今入舎)</p> 	<p>「さくらいろのりゅう」</p> <p>村人に「役にたたない小石のようだ」と言われていた娘コイシに、はじめてできた友だちは、りゅうでした。コイシは、桜色の貝とりゅうの貝という名前を貰うと、うろこが欲深い村人の目にとまってしまいました。</p> <p>作／町田尚子 1,500円(アリス館)</p> 
<p>「もりのホテル」</p> <p>森の中の大きな木に、1軒のホテルがありました。アライグマ一家の「もりのホテル」です。ピカピカにお掃除をして、今日のお客さまを待ちます。やってきたのはヘビさん、クマさん、フクロウさんと、たくさんの中鳥たち。あなたも行ってみませんか?</p> <p>作／ふくざわゆみこ 1,300円(学研教育出版)</p> 	<p>「やぎのしずかのしんみりしたいちにち」</p> <p>友だちのナマズに「しんみりするうた」を歌ってもらったりヤギのしずかは、しんみりするってどんなことだろうと考えましたが、わかりません。しみじみと泣きながら寝て起きたら、何を考えていたのかもう思い出せません。</p> <p>作／田島征三 1,300円(偕成社)</p> 	<p>「きみへのおくりもの」</p> <p>ネコのクロは、大好きなシロに湖に浮かぶからきらめるものをプレゼントしようと悪戯苦闘しますが、手に入れることができません。でも、シロはにっこりほほえんでいます。なぜなら、大切なものは、ふたりの心の中にいることを知っていたからです。</p> <p>作／刀根里衣 1,400円(NHK出版)</p> 	<p>「かき氷 天然氷をつくる」</p> <p>天然氷をつくる氷屋。埼玉県では長寿の河佐美さんのお家だけになってしましました。氷づくりの準備は夏が過ぎたころから始まります。氷池の掃除、点検、採氷……自然の冬の寒さを助けに手間をかけてつくられる、貴重な技術を知ることができます。</p> <p>写真／鈴島雅代 文／伊地知英信 1,600円(岩崎書店)</p> 	<p>「ぞうのなみだ ひとのなみだ」</p> <p>生きものたちがのんびり暮らすルフルナの森を、人間は木を伐り、田へ変えていました。収穫間際の稚穗を食べた母ゾウは統で駆たれ、涙を流しながら死にました。残された子ゾウは母を求めてさまよい歩き、母ゾウの死を悼む少女の目にも涙があふれます。</p> <p>著／藤原幸一 1,400円(アリス館)</p> 
<p>定期購読者限定プレゼント</p> <p>新刊本プレゼントの応募はアンケート用紙、またはウェブから。</p> <p>2015年3～5月に発売された新刊絵本の中から、子どもたちとすてきな時間を過ごしてください。</p> <p>読みきかせにもおすすめの100冊を選びました。</p> <p>もう読んだ?</p> <p>新刊 100 !!</p> <p>※出版社五十音順</p> <p>マークは乳幼児から、 マークは中・高校生も楽しめる本です。</p>				

もう読んだ?

新刊 100 !!

1

